

いわき農林水産ニュース

令和3年3月号（第193号）発行 3月25日

ふくしまからはじめよう。

『食』と『ふるさと』新生運動ニュース



冬から春にかけて旬のイシカワシラウオ。鮮度の良いものは、刺し身で食べることができます。

目次

- ・【特集】いわき地方でGAPの取組が広がっています！p.1～〔各種取組の実績（2～3月分）〕……………p.3～〔お知らせ・連載記事〕
- ・いわき地方の出荷制限等品目……………p.6
- ・いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果……………p.6
- ・山菜等の出荷・制限について……………p.6
- ・「高校生発！いわきテイクアウトメニュー開発」
実食キャンペーン……………p.7
- ・「ふくしまプライド。」県産農林水産物販売力
強化支援事業について……………p.8
- ・退職者・転出者一覧……………p.9
- ・6次化商品紹介……………p.10

特集

いわき地方でGAPの取組が広がっています！

本県では平成29年5月15日に、本県農林産物の安全・安心について、より情報発信するため「ふくしまGAP。チャレンジ宣言」が行われました。これにより平成29年度から令和2年度までをGAP推進期間と位置づけ、県をあげてGAPの導入推進を図ってきました。

そのような中、いわき地方では認証GAPの取得数が4件と少なく（平成29年5月15日時点）、生産者のGAPに対する意識の向上が課題となっていました。

そこで当所では、平成29年8月にJA、（株）平果、（株）マルト商事、（生）パルシステム福島、いわき市とともに「いわき地方GAP推進協議会」を立ち上げ、生産・流通・消費の一連の流れにおいて認証GAPの普及推進を図り、令和2年度までに認証GAP取得数を40件確保することを目標に活動してまいりました。



（ふくしまGAPチャレンジ宣言（平成29年5月））



（協議会の立ち上げ（平成29年8月））

平成29年からは所内でGAP推進チームを立ち上げ、GAP取得に意欲がある生産者をリスト化、認証GAP取得に向けたコンサルテーションや補助事業の活用支援、認証取得後の維持・更新支援、GAP関係法令に関する研修会の開催等を行ってきました。また、認証取得までの進行管理表を活用したスケジュール管理を行い、生産者が計画的に認証GAPを取得できるよう支援しました。

さらに、流通業者の販売担当者を対象としたGAP理解促進研修会や、市と連携した消費者へのGAP農場見学ツアー等を毎年実施するなど、流通・消費におけるGAPへの理解向上を目指し、活動を行ってきました。さらに本年度は、実需者から生産者へ直接GAP農産物について商談できる「いわき地方GAP農産物供給可能農場マップ」を作成・配布し、GAP農産物の消費拡大を図りました。（URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/gapnousannbutu.html>）

これらの活動を通じて、平成29年から、毎年GAP認証取得件数が増加し、本年度末で45件の取得数(ASIAGAP1件、JGAP22件、FGAP22件)となり、協議会の目標を達成する見込みです。

また、認証取得した生産者からは、「GAP取得により農産物の安全性が確認できるとともに、バイヤーからの問い合わせが増えて販売量が増加した」「従業員の意識が改善された」「食品衛生・農作業安全の観点からリスク評価を行うことで、作業者の労働環境を改善しながらより安全ないちご栽培ができるようになった」などの意見が寄せられています。

さらに、地元スーパーではGAP農産物を販売する「GAPコーナー」が設置され、GAPツアーやPRイベントに参加した消費者からは、「GAPに対する理解が深まった。今後はGAP農産物を買ってみたい」などの意見があがっています。

一方で、認証取得者の長期的な認証GAPの維持や、消費者への更なる理解の促進が課題です。当所としても、生産者の経営改善ツールとして認証GAPの取得を推進するとともに、流通業者及び消費者に対する啓発活動を継続的に実施してまいります。

令和3年度も認証取得等に係る経費を支援する「第三者認証GAP取得促進事業」を継続しますので、是非、活用されますようお願いいたします。

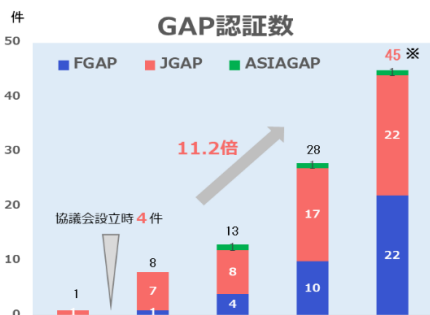
(農業振興普及部)



(GAP関係法令に関する研修会)



(GAP農場見学ツアー)



(いわき地方における認証GAP取得件数の推移)
※年度内見込み数

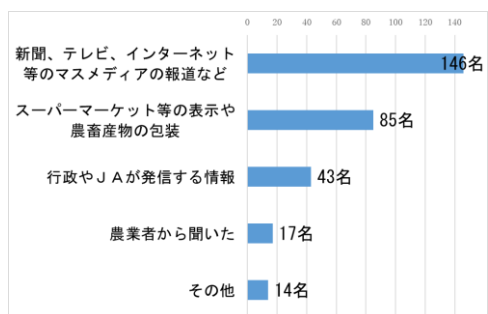


(スーパーで設置されたGAPコーナー)

「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン 消費者アンケート結果

当所では、今年度3回開催した「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンにおいて、いわき市産農産物のPR、認証GAP制度の周知・認知状況等のアンケート調査(回答者計500名)を行いましたので、その結果をお知らせします。

■ どのような機会を通じてGAPについて知ったか



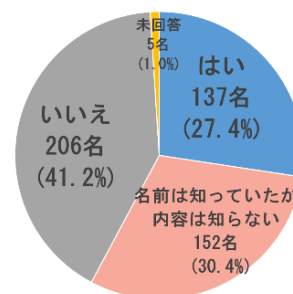
※GAPについて知っている方のみ回答
※複数回答あり

消費者の認知状況は、テレビなどのマスメディアなどを通じた報道等により「GAP」という名称は消費者に浸透しつつありますが、取組内容に対する認知状況は消費者の3割未満とまだまだ低い状況です。

主な認知手段は、マスメディアなどによる報道が約半数を占めていることから、当所でもマスメディアなどのツールを活用して、更なる認証GAPのPRに取り組んでまいります。

(企画部)

■ GAPの取組を知っていたか





カンパニュラ摘心栽培現地検討会を開催

〔3月1日(月)〕

山田町の花き生産者ほ場でカンパニュラ摘心栽培現地検討会を開催しました。

現地検討会には市内の花き生産者など11名が参加し、カンパニュラの生育状況や開花状況を確認しました。当部の試算で

は、摘心をしない栽培方法よりも10a当たり35万円程度の増収が期待される結果となりました。しかし、短い切り花が多いことから切り花長の向上などが今後の課題です。



〔カンパニュラ摘心栽培の開花状況を確認する花き生産者〕



(開花したカンパニュラ)

令和3年度からは試験研究機関である農業総合センター浜地域研究所がカンパニュラ摘心栽培の試験に取り組みます。当部では、浜地域研究所との連携を強化することでカンパニュラ摘心栽培の技術確立に貢献し、当管内の切り花振興に繋げてまいります。(農業振興普及部)

「ふくしまプライド。」バイヤーツアー～いわき編～

〔3月8日(月)〕

県農産物流通課が主催する「ふくしまプライド。」バイヤーツアー～いわき編～が開催され、16名が参加しました。本ツアーは、県内の飲食店・宿泊施設等購買担当者などの実需者を対象に、産地をバスで視察し、各生産団体・生産者の品質向上・安全確保に向けた取組に対する理解を深めていただき、今後の取扱増加を目指すものです。

今回は、いわき地域の特色ある食材を視察先に選定し、久ノ浜漁港(海産物)、合同会社はまから(海産物・加工品)、株式会社ワンダーファーム(トマト・加工品)、ファーム白石(冬野菜)、NPO法人オリーブプロジェクト(オリーブ・加工品)を視察しました。ツアーでは、実際に競り、加工場、圃場の様子を視察するほか、試食の実施や生産者と質疑応答を交わすなど、食材の魅力の背景にある生産者の取組やこだわりを知ってもらうことができました。参加者は、ツアーならではの内容に、五感を使って県産農林水産物について知識や理解を深め、今後の取扱いを前向きに検討していました。(農産物流通課)



(久ノ浜漁港)



(ワンダーファーム)



(ファーム白石)



いわき市森林組合林業コンクールの表彰式 [3月10日(水)]

いわき市森林組合第51回通常総代会席上において、いわき市森林組合林業コンクールの表彰式が行われました。このコンクールは、森林組合員の林業技術の向上と林業経営の改善を図り、地域の林業に資することを目的に毎年開催されています。今年度は6点の応募があり、いわき農林事務所長賞は、造林技術部門では荻野誠氏、間伐技術部門では平山佳一氏に授与されました。

いわき管内の人工林は高齢級化が進み、整備が必要な森林も多いことから、このコンクールの施業地が森林組合員の皆さまの森林づくりの見本となり、いわき市の森林整備が促進されることを期待します。(森林林業部)



(造林技術部門 荻野誠氏所有の森林)



(間伐技術部門 平山佳一氏所有の森林)

大径木材を有効活用した木造倉庫の完成 [3月25日(木)]

協同組合いわき材加工センター小川工場(p.9 地図参照)に、いわき市産の大径木材を有効活用した木造倉庫が完成しました。軒高は約7m、トラス張の長さは約18mの大型倉庫です。この大きな張と屋根を支える柱には24cm角材を3本連結した合わせ柱(※)を採用し、大径木材の有効活用事例となる建築物です。(令和2年度福島県木材製品保管緊急対策事業(保管倉庫整備事業)による整備)

いわき市は、森林面積が市全体の約72%(福島県全体森林率約70%を上回る!)であり、これら森林のうち人工林の多くは一般的な伐期となる50年生を超えているため、積極的に使うことで森林の若返りを図り、森林の持つ公益的機能を維持・向上することが社会的課題となっています。そのため、この木造倉庫のように、木材のより効果的な活用に取り組むことで木材需要を拡大していくことが重要です。

これらも背景に、いわき市では令和3年4月より市産木材等の利用の促進を目的とした「いわき市豊かな森づくり・木づかい条例」が施行され、福島県では森林環境税の第4期を新たにスタートさせるなど、地域材の利用拡大に向けた機運は一層に高まってきています。これらを契機に、新たな建築分野でより効果的な木材の活用事例が増え、今後の普及に繋がることが期待されます。

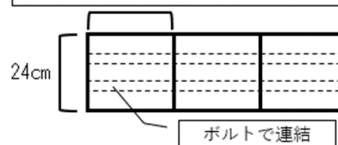
(森林林業部)



(木造倉庫の内部)



※ 水平断面図(3本角材合わせ柱)



なお、一般的な木造住宅は12cm角の一本柱

おうちで親子調理体験！コロナ禍ならではの食育活動を実施

〔2月9日（火）〕

いわき地区生活研究グループ連絡協議会は、毎年、食育活動を実施しています。今年度は「福島県青年・女性農業者等活動支援事業」を活用し、親子料理教室の開催を1月に予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で外出自粛要請が出され、やむなく開催直前で中止となりました。

そこで諦めないのが農家のかあちゃん！ 申し込みのあった市内在住の親子 18組 42名に、レシピ、食材、アンケート等を送付して、各ご家庭において親子で調理体験してもらう取組に急遽変更しました！

メニューは、いわきとっくり芋のきんちゃく揚げ、大久じゅうねんのパウンドケーキ、トマトと長ねぎのキーマカレーの3品で、いわきの特産品や伝統野菜を使った料理を体験してもらいました。参加者親子からは、「普段、子供達と一緒に料理することは少ないので、良い機会になった」「子供達も自分で作ったからか、普段は食べないものも食べてくれた」等、喜びの声が多数寄せられ、楽しそうな子供達の写真もたくさんいただくことができました。

今後もコロナ禍の影響と対策を考慮しながら、工夫して食育活動を支援してまいります。

（農業振興普及部）



（調理体験の様子）

平第六小学校で現場見学会（夏井川左岸地区）を開催〔2月26日（金）〕

県営長寿命化・防災減災事業 夏井川左岸地区では、平成26年度より老朽化した小川江筋幹線水路の補修工事を行っています。現在施工している区間が、ちょうど平第六小学校（p.9 地図参照）の裏側のため、4年生の社会科の授業時間を活用して現場見学会を実施しました！

施工前の現場見学会を昨年末（12月18日）に実施しており、今回は施工後の現場見学会として、実際に水路の中を児童たちに歩いてもらいました。普段は、水路内を歩くことができないため、興奮して走り出す児童もいました。また、「この水はどれだけの田んぼに利用されるんですか？」「この穴（ウィープホール）は何のためにあるんですか？」など、たくさん

の質問が相次ぎ、用水路や用水路補修工事について理解を深めることができましたようです。

来年度は、通水前の4月中旬頃に、この水路を管理している磐城小川江筋土地改良区の主催で、水路側壁をキャンバスに見立て、児童たちに絵を描いてもらうことを計画しています。

今後の報告もお楽しみに！

（農村整備部）



（児童たちの質問に答える様子）

トピック1

規格外の梨を使用した石けんの新商品を報告

〔3月24日（水）〕

磐城農業高校の生徒さんが、同校の果樹園で収穫された規格外の梨を使用した石けんの新商品完成を報告するため当所を訪問しました。

「BANNO SOAP（バンノウ ソープ）」と名付けられたこの石けんは、ほんのりと梨の香りがする天然由来成分 100%です。1個 800円（税込み）で同校等で販売されているほか、いわき市のふるさと納税の返礼品にも採用されています。当日は、商品開発に携わった渡部星空さん

（食品流通科2年）と共に、五ノ井校長、穂積教諭、共同開発したジーエスオートジャパン（泉町）の三戸さん、坂本竜太郎県議会議員が、いわきの特産品である梨を使用した思いや食品ロス削減の取組を根本所長に報告しました。更なる生徒さんのアイディアによる商品開発が期待されます。

（企画部）



（集合写真）



お知らせ

いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果（令和3年2月分）

□ 農林畜産物の検査結果

令和3年2月の農林畜産物モニタリング検査では、10品目21検体を検査し、全ての検体について放射性セシウムは検出されませんでした。内訳は（表1）のとおりです。（企画部）

（表1）品目と検体数

シュンギク（施設）1、ニンジン1、ネギ1、サトイモ1、菌床しいたけ（施設）6、菌床えのきたけ（施設）1、エリンギ（施設）1、ふきのとう（野生）1、牛肉7、原乳1
--

□ 海産魚介類の検査結果

令和3年2月の水産物モニタリング検査では、82検体の魚介類を検査し、全ての検体について放射性セシウムは検出されませんでした。（水産事務所）

いわき地方の出荷制限等品目

令和3年2月末日現在、いわき地方の農林畜水産物のうち、出荷が制限等されている品目は（表2）のとおりです。

出荷制限等品目は、出荷・販売だけでなく、宿泊施設等での提供や加工用原材料として使用することもできません。また、自主検査等により基準値（100Bq/kg）以下であっても出荷・販売はできませんのでご注意ください。（企画部）

（表2）農林畜水産物の出荷制限等品目（令和3年2月末日現在）

制限、自粛	区分	品目
出荷制限	山菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ（野生のものに限る）、わらび（野生のものに限る）※、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ
出荷自粛	山菜	さんしょう（野生のものに限る）

※わらび（栽培）は該当生産者15名のほ場に限り出荷制限が解除されました。

山菜等の出荷・制限について

山菜が発生する時期を迎えましたが、いわき市においては、山菜の一部について出荷制限等の対象となっておりますので、採取者や直売所担当者の皆さまにおかれましては、次の点に留意するようお願いします。

1 出荷制限について

現在、いわき市産の山菜のうち、出荷が制限等されている品目は（表2）のとおりです。これらの品目は地域全体としての安全性が確認されていないことから、出荷制限等は今シーズンも継続しています。そのため、

- 団体や個人においての自主検査により基準値（100Bq/kg）以下であっても出荷や販売等はできません。
- 無償の譲渡や、インターネット（フリマアプリ等）による個人売買も出荷に該当するため、できません。
- 出荷・販売だけでなく、飲食店や宿泊施設等での提供や加工用原材料としても使用できません。

なお、出荷制限等品目は市町村ごとに定められていますので、他の市町村の状況は県HP「ふくしま復興ステーション」（<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/mon-kekka.html>）で確認してください。

2 出荷制限等品目以外の山菜について

県において緊急時環境放射線モニタリング検査を実施しており、今シーズンのモニタリング検査結果を確認のうえ出荷・販売するようお願いします。モニタリング検査の結果は、新聞や県HP「ふくしま復興ステーション」で公表されます。（森林林業部）

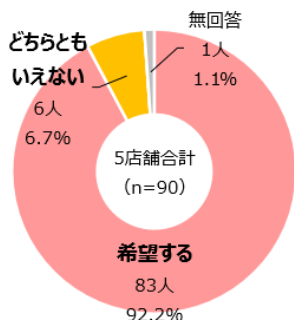


「高校生発！いわきテイクアウトメニュー開発」実食キャンペーン

「高校生発！いわきテイクアウトメニュー開発」では、2月15日から24日にわたって、実食キャンペーンを開催し、高校生と飲食店・スーパー5店舗（以下、協力店とする。）が共同開発したテイクアウト商品を販売しました。さらに、全店舗でキャンペーン期間以降も3月上旬まで商品を販売しました。

販売実績（5商品合計）	
キャンペーン期間中の販売数	2,430 個
延長期間も含めた販売数	4,680 個

Q. 今後も「高校生発！いわきテイクアウトメニュー開発」の開催を希望しますか？



キャンペーン中に商品を購入された方に商品や事業内容に関するアンケートを実施し、90名から回答がありました。また、回答者の中から抽選で10名の方にワンダーファームの商品3千円分をプレゼントしました。

アンケートの回答者からは、「とても美味しく、高校生が考えた商品だとより味わいが増します」や「高校生のアイデア料理、家族みんなで美味しく頂きました」、「また季節の旬の食材を使って届けてください」などのコメントがありました。また、90%以上の方が当事業についても継続を希望する結果となり、大変好評でした。（企画部）

トピック2

「いわきハタチ酒プロジェクト」第3期活動の新酒完成！
～二十歳の年の、米作りから酒造り体験～



若い世代に日本酒の素晴らしさに触れてもらうことを目的に、1年を通して二十歳前後の皆さんに米作りから酒造りまでを体験してもらう「いわきハタチ酒プロジェクト」は、第3期活動（R2春～R3冬）の新酒が完成し、3月20日から市内各店で販売を始めました。



（上槽の様子）



（今年のラベルデザイン）

これに先立ち、2月末には今期の参加者による「酒造り体験」を行いました。今期は運良く、醪（もろみ）を機械で絞る「上槽（じょうそう）」という作業を体験することができました。上槽のタイミングは予測が難しいため、この作業の体験ができるのは非常に稀とのことでした。

今期はコロナ禍により活動が難しいシーズンでしたが、今年の新酒も香り高く味わい深い逸品に仕上がりました。1期目の活動から継続して、酒米・水・醸造所ともオールいわき産にこだわった「ハタチ酒」は、年間を通じて下記の市内酒販店で販売しますので、ぜひご賞味ください。

- ①あわのや酒店（平・大工町） ②酒のいとう（勿来町・窪田町） ③酒のまるとみ（小名浜・大原）
- ④さわきや（平・中町） ⑤タイハイ酒店（常磐・下湯長谷町）
- ⑥丸伊酒店（平・四丁目） ⑦矢吹酒店（平・六丁目）

ハタチ酒プロジェクトは、新年度から「第4期」活動をスタートします。参加者も募集を開始していますので、これまでの活動・今後の予定と合わせて、ハタチ酒の「facebook」をご覧ください。

URL : <https://www.facebook.com/iwaki2Osake>

（企画部）

「ふくしまプライド。」県産農林水産物販売力強化支援事業について

県産農林水産物の販売促進活動等を支援する「『ふくしまプライド。』県産農林水産物販売力強化支援事業」の活動団体の募集を予定しております。募集期間は4月はじめ～中旬頃を予定しておりますので、関心のある方は当所企画部までお問い合わせください。(企画部)

1 概要

県内の市町村、民間団体、県域等農業団体が県産農産物(加工品を含む)の価値を伝え、販売・消費の拡大を図るため、国内において実施する県産農林水産物の販売促進活動やパッケージの作成など産地や生産物の魅力が消費者に伝わる商品づくりに対して支援します。



＜令和2年度活用事例＞
東京のおにぎり専門店と連携し、Iwaki Laiki の美味しさを消費者へ伝えるライブキッチンイベントを開催！

2 事業内容・補助額

国内において実施する県産農林水産物の販売促進等に係る活動。
○民間団体事業補助額：上限 70 万円

さらに、GAP による生産物の PR や販売促進の取組を行う場合には、補助上限額が 50 万円かさ上げとなり、最大で 120 万円の支援が可能となる予定です。

3 補助対象経費

事業委託費、広報費、旅費、資材作成費、デザイン費、試作費、ウェブサイト作成・維持費、調査費、イベント運営経費、謝金、通信運搬費、保険料、施設借料、試食等サンプル経費、車両借上料、消耗品費 等

4 対象となる民間団体

県内に主たる事務所を置く特定非営利活動法人、事業協同組合、企業組合、公益社団法人、公益財団法人、一般社団法人、一般財団法人、2 戸以上の農林漁業者や商工業者が組織する任意団体 等

お問い合わせ

いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
TEL 0246-24-6197
FAX 0246-24-6196

トピック3

令和3年度はピーマン栽培者が増加します！

いわき市では、中山間地域の園芸振興を目的として、昨年からはピーマン栽培を推進しており、今年からは三和地区の生産者8名で栽培が開始されました。収穫初年目の今年、総出荷量約 10t、販売額が 480 万円になるなど、取組1年目として素晴らしい結果となりました。ピーマンを初めて栽培した生産者からは、「かん水やへた切り作業に苦労したが、収穫量が多く、地域の仲間と一緒に楽しく栽培できた」との感想がありました。



(ピーマン栽培の様子)



(新規栽培者説明会)

また、1月13、14日には、JA福島さくらいわき地区本部主催の新規栽培者説明会が開催され、三和・川前・小川・田人・遠野地区から計30名の生産者が集まりました。その結果、令和3年度には新たに18名がピーマン栽培を始めることとなりました。

当部としても、新規栽培者の早期技術習得に向け、栽培技術及び経営指導、土壌分析に基づく施肥設計等の支援や、JAと連携した指導会や個別巡回等を実施してまいります。(農業振興普及部)

退職者・転出者一覧

令和3年3月をもって退職または転出するいわき農林事務所・水産事務所・水産海洋研究センターの職員は以下のとおりです。

<いわき農林事務所>

職名		名前
所長		根本 文宏
総務部	主幹兼副部長兼 総務課長	坂本 桂次郎
	専門技術管理員	藤原 浩幸
企画部	企画部長	矢吹 秀明
農業振興普及部	副部長	酒井 隆
	主査	木幡 由美子
	技師	星野 輝彦
農村整備部	技師	穴澤 拓哉
	農村整備課長	半谷 祥二
	主任主査	児玉 守智
	副主査	藤江 孝太郎
森林林業部	副主査<退職>	高木 英昭
	主事	相馬 悠人
	森林林業部長<退職>	鈴木 孝
	林業課長	阿部 正久
	主任主査	高橋 伸二
	主任主査	小林 春男
	主任主査	金成 祥実
	技師	片野 高志
技師	花田 真紀子	
技師	根本 康暉	

<水産事務所>

職名	名前
主幹兼次長兼総務課長	吉田 登
主任主査	渡辺 透
主査	齊藤 美由紀
主査	富谷 敦
主査兼一等機関士	宗形 順一
主査	伊藤 貴之

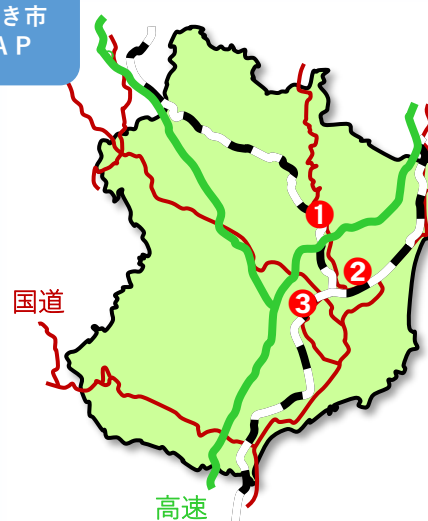
<水産海洋研究センター>

職名	名前
主幹兼事務局長	紺野 保幸
放射能研究部長	神山 享一
副主任研究員	鈴木 翔太郎
副主査兼二等機関士	佐々木 和幸
研究員	坂本 啓
研究員	森下 大悟

今月号に掲載した場所はここです！

- ① いわき材加工センター小川工場 (p.4)
小川町下小川広畑 129
- ② いわき市立平第六小学校 (p.5)
平中神谷字石脇 22
- ③ ame Cafe (p.10)
内郷綴町大木下4

いわき市
MAP



こだわりと美味しさがつまった いわき自慢の6次化商品をご紹介します！

内郷にあるソフトクリーム専門店ame Cafe(アムカフェ)では、こだわりの「アムバスクチーズケーキ」と「アムプリン」を販売しています。

アムバスクチーズケーキにはいわき地養卵を使用し、地産地消によりいわきの活性化につなげたいという思いが込められています。さらに、高級ソフトクリーム「クレミア」を使用し、長時間かけてじっくりと焼き上げ、濃厚な卵の味とクレミアならではのコク、とろける食感を味わえます。小麦粉・保存料不使用のため、お子様からご高齢の方まで安心してお召し上がりいただけます。また、温度によって食感が変化し、常温・半解凍・オーブントースターによる温めの3パターンの食べ方を楽しむことができます。

アムプリンは、ふわとろ食感の濃厚なプリンの上に、優しい甘さの自家製生クリームがたっぷり乗っていて、プリン好きの方にぜひ食べていただきたい商品です。

どちらもame Cafe店舗や公式サイト、楽天市場でお買い求めいただけます。ぜひご賞味ください！



ame Cafe 鈴木店長



販売価格

アムバスクチーズケーキ

・ホール(5号サイズ)/3,500円(税込)※予約のみ販売
・カットサイズ/550円(税込)

◆ アムプリン 380円(税込) ◆

ame
Cafe

●住所：いわき市内郷綴町大木下4番地
●営業時間：12:00～16:00 ●月曜日定休
●TEL・FAX：0246-38-8501
●Web <https://www.ame-cafe.net/>

所在地は p.9 のマップを参照

編集後記

早いもので、今年度も残すところあとわずかとなりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により様々な制約を受けた1年となりましたが、数多くの明るいニュースも掲載することができたと思います。

本誌では、来年度も引き続きいわきの農林水産業に関する話題をお届けしてまいりますので、どうぞよろしく願います！
(企画部 K)



◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)
TEL (0246)24-6152 FAX (0246)24-6196
URL <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース